

京都府立植物園を訪問

(サボテン以外にもいろいろな植物があり
面白かったです)



温室内でサボテン発見



柱サボテンの切断面
維管束の外側は意外と柔らかいまま。



日本の「The サボテン」キンシャチ



キンシャチ
金鯧

Echinocactus grusonii

サボテン科
Cactaceae

メキシコ中部のサン・ルイス・ポトシ州～イダルゴ州原産。植物体はほぼ球形であるが、古くなると径90cm、高さ1.3mの円柱状になる。本園のこの個体は、昭和5年11月にメキシコのパルメー博士が、宮内庁に献上されたものの一つで、本種が日本に最初に導入された個体である。1990年に京都大学農学部附属農場古曽部温室より寄贈された。

強刺類がたくさん



トゲの機能に関する研究はけっこうあります。



ウィルウィッチア！
こんなに大きな個体が日本にあるんですね。





ラフレシアのレプリカ



世界最大の花

ラフレシア

Rafflesia arnoldii

スマトラ島原産
ラフレシア科

有名なラフレシア・アーノルディーのホルマリン浸漬標本です。花の直径30-50cm、重さ5kgにもなります。雌雄異株で、花に腐肉臭があり、ハエ(オビキシバエ)が集まって花刺を運び、花粉を助けます。花は4-5日で腐ってしまいます。ブドウ科の植物に寄生し、葉緑素がまったくありません。



「サルの顔」に見えるラン

